

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年 1月21日

協議会名:中土佐町地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
有限会社 中土佐ハイヤー	①川崎・萩原線 ②楠ノ川線 ③長沢・大坂線 ④下ル川線 ⑤萩中線 ⑥高樋線	コミュニティバスを利用したことが無い高齢者にアプローチするため、お出かけイベントやバスの乗り方教室の実施、および利用者懇談会や地区別意見交換会を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により事業の実施は一部に留まった。	B 町内を運行するバス事業者との調整を経て、乗り換えを意識した路線バス運行ダイヤの設定をおこなった。一部の地域での地区別意見交換会の開催は実施できたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、公共交通利用者懇談会、高齢者を対象としたお出かけイベントは実施できなかった。また、すべての公共交通を網羅した時刻表の作成は、役場庁舎の移転に伴う路線の変更が予定されているため、実施を見送ることとした。	B ②楠ノ川線については目標を達成できた。 ④下ル川線、⑤萩中線は目標には届かなかったものの、それに近い利用が確認できた。 ①川崎・萩原線、③長沢・大坂線、⑥高樋線については目標値を下回る結果となった。極端に利用者数が少ない地域への乗り入れを休止するとともに、今後も引き続き利用促進の取組みを進めていく必要がある。 ①目標8人/日に対し3.0人/日 ②目標12人/日に対し13.7人/日 ③目標10人/日に対し7.3人/日 ④目標14人/日に対し12.3人/日 ⑤目標14人/日に対し13.6人/日 ⑥目標9人/日に対し7.4人/日	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、高齢者が外出を控える傾向にあったこと、加えて感染症拡大への懸念から、利用者懇談会、高齢者を対象としたお出かけイベントなど利用促進につながる取組みが開催できなかったこと等の理由から、新たな利用者を生み出す取組みにつなげられず、全体的に利用者数の減少が進んでいる。今後は、利用者数が極端に少ない路線や当面の間利用が見込まれない区間の運行休止と、利用希望の声が寄せられている地区への乗り入れを開始などの路線再編を行なうなど、地域の移動ニーズに合わせて柔軟な運行を行っていく。並行して、新型コロナ感染防止対策を行いつつ、未利用者に公共交通を知ってもらい、利用してもらえるように、特に福祉部門の高齢者外出支援策との連携する取組みを検討する。